

# 十五夜

空気が澄み、月が一番美しく見える秋。旧暦8月15日の夜には、月を愛でながら秋の収穫物を供えて収穫を祝う十五夜の祭りが行われます。旧暦では8月が秋(7・8・9月)のちょうど真ん中にあたるため、十五夜のことを「中秋の名月」とも呼び、親しんできました。この日の月は一年で最も明るく美しいとされ、お供えを用意して月を見上げたり、各地域でさまざまな行事が行われています。



## 芋名月とも言われる十五夜

「十五夜」は、**中秋の名月を鑑賞する**他、これから始まる収穫期を前にして、**収穫を感謝する初穂祭**としての意味あいがありました。9月頃に収穫される「芋」をお供えすることから「**芋名月**」とも呼ばれています。

現在では、満月のように丸い月見団子と魔除けの力があるとされたススキを伴えるのが一般的な「十五夜スタイル」です。また、地方によってはこの日だけは、他人の畑の作物を無断で取っても良いとか、子どもがお月見のお供え物を盗んで良いとする風習もあるそうです。

## 十五夜とうさぎ

十五夜にうさぎが出てくるのは、ある逸話があるからです。

その昔、天竺にサル、キツネ、ウサギの3匹がいました。彼らは自分たちが獣なのは前世で悪いことをした為と常々思っていました。

それを見て、哀れに思った御釈迦様は、自らお腹を空かせた老人の姿となり3匹の前に現れ、彼らがどのように善行を行うのか試してみようと思いました。

木に登れるサルは木から沢山の木の実を取り老人に差しだし、キツネは鳥や魚を獲って老人に捧げました。しかし、ウサギはサルのように木の実を獲ることも、キツネのように鳥や魚を獲ることもできず、ただウロウロするばかり・・・。

何もしてあげれないと思ったウサギは老人の前で火を焚き、「何もできない私ですが、どうかこの身を食べて空腹を満たしてください」と自ら火の中に飛び込んで死んでしまいました。

ウサギを哀れに思った御釈迦様は老人から釈迦の姿に戻り、ウサギの亡骸を抱いて天に昇り、月の宮居にその亡骸を祀り、月を見るたびにそのうさぎを思い出しました。

十五夜とうさぎの関係は仏教の説話が元とも言われていて、うさぎが餅をついているのはやはり**米の収穫を感謝する**為のようです。





## 十五夜とすすき

十五夜にすすきを飾るのは、江戸時代の収穫を祝ったことから派生しています。すすきが稲穂に似ていることから飾るようになったようです。またすすきは月の神様を招く目印としても飾るといわれています。十五夜にすすきを飾ると一年間病気をしないそうです。

## 十五夜はいつも満月ではない！？

十五夜は満月を意味しているのですが、毎年満月なのではないかと思われていますが、**実は十五夜はいつも満月ではありません！**

十五夜と満月は毎年1日ほどずれていることが多いのです。



## 当院でのお月見

当院では病室でもお月見を楽しんで頂くため、27日の夕食にお月見ゼリーを献立に加えました。今回は、実習生が作ってくれたカードも患者さんにお配りしました。



【お月見ゼリー】



【お月見カード】

## 患者様からの御感想

・窓の外からくっきりと中秋の名月が見えました。古くから伝わっている行事。時代の流れで忘れがちですが、一時を楽しみました。足の手術で今一番辛いですが、気持ちが安らぎました。ありがとうございます！！

・『お月見ゼリー』どうもごちそうさまでした。家では、お団子を作り、すすきをいけてお月見をしています。今夜も病室から美しいお月様を見たいと思います。

他にもたくさんのご感想をいただきました。ありがとうございました。

平成27年9月 丹後中央病院 栄養科